

カメラ ま ち の 出 来 事 あらかると



かはし

広報たかはし



城下町を駆け抜ける (2月11日 市役所前スタート・ゴール)

「第28回愛らぶ高梁ふれあいマラソン」が開かれ、城下町コース(8キロ)、愛らぶコース(5キロ)、ふれあいコース(3キロ)の3コース13部門に864人が参加。

大会には、天満屋女子陸上競技部の森本友選手らがゲスト出場し、参加者とともに3キロコースを走りました。また、ピッチュマンや全国生涯学習フェスティバルマスコット・マナビィ、県マスコット・ももっちも参加し、大会を盛り上げていました。

成羽の風を感じながら (3月4日 成羽文化センター)

「第20回なりわ健康マラソン」が行われ、2.6、4.8キロの2コース9部門に374人が出場しました。ゲスト選手として、昨年の全国高校女子駅伝で準優勝した興譲館高校陸上部の選手が出場。参加者は、成羽川沿いや古い町並みの中に設定されたコースを、沿道からの声援を受けながら駆け抜けていました。



100歳おめでとうございます (3月1日 自宅<中井町西方>)

山本ひささんが3月1日に100歳の誕生日を迎えられ、市長らが訪問して記念品や花束を贈り長寿を祝いました。長寿の秘訣は「不平不満を言わず、常に感謝の気持ちで生活してきたこと」だそうです。

市内で100歳以上の人は3月1日現在で24人(男性5人、女性19人)

バランスを考えた食生活を (2月24日 有漢生涯学習センター)

「親子ふれあい食育講演会」が開かれ、「育ち盛りの子どもの心と体を育む食卓」をテーマに講演等がありました。

参加した地域住民や有漢中学校の生徒ら約160人は、誤ったダイエットの悪影響やバランスの良い食事の大切さなどを学びました。





観光写真コンテスト グランプリ決定 (3月2日 高梁国際ホテルにて表彰式)

㈱高梁市観光協会が主催する「第21回備中たかはし観光写真コンテスト」の入賞者が決まり、グランプリには、岡城正義さん(岡山市今)の「雪の吹屋」(左の写真)が選ばれました。

対象は高梁市全域の風景や行事の写真で、市内外の48人から計105点の応募がありました。

その他の入賞作品には、備中松山城の雲海や渡り拍子などの写真がありました。

スキーって楽しいね (2月18日 いぶきの里スキー場)

備中地域の小学3～6年生の児童を対象に「雪山わんぱく教室」が行われました。

参加した児童らは、スキー場のインストラクターから滑り方などの指導を受け、めきめきと上達。スキーの魅力を発見した児童らは、雪山でのひとときを満喫していました。



絵本を楽しもう (3月7日 文化交流館)

平成18年度子育てふれあいネットワーク事業として、就実大学非常勤講師・伊丹弥生さんを招いての「読み聞かせ講座」が開かれました。

読み聞かせボランティアとして活動している人、乳幼児の子育て中の人など55人が参加。絵本の選び方や読み聞かせの方法など、伊丹さんの実演を交えた話に参加者は熱心に耳を傾けていました。

子どもたちを夢の世界へ (3月4日 総合文化会館)

「高梁子どもフェスティバル～それいけ!みんなの夢の国～」(順正短大幼児教育科主催)が行われ、親子連れら約1000人が学生らの演じる劇やミュージカルなどを楽しみました。

同フェスティバルは昭和53年から行われている恒例行事で、今年で30回目。



今月の 表紙

軒先に並ぶ華やかなひな雛人形

吹屋ふるさと村では、「吹屋ふるさと村観光周遊バス」の運行再開(3月17日から)にあわせて、軒先や玄関などに雛人形を飾って観光客を迎え入れる準備をしています。

雛人形は、歴史を感じさせるものや比較的新しいものなどさまざま。吹屋のベンガラ色とひな壇の朱色が見事に調和して、道行く人たちの目を楽しませています。